

令和6年度 第2回・岡山県地方独立行政法人評価委員会 議事概要

1 日時

令和6年7月22日（月）10:00～12:00

2 場所

ピュアリティまきび（岡山市北区下石井2-6-41）

3 出席委員

萩原委員長、小田委員、清水委員、秋山専門委員、桑原専門委員

4 議事

（1）公立大学法人岡山県立大学 第4期中期目標（案）について

5 内容

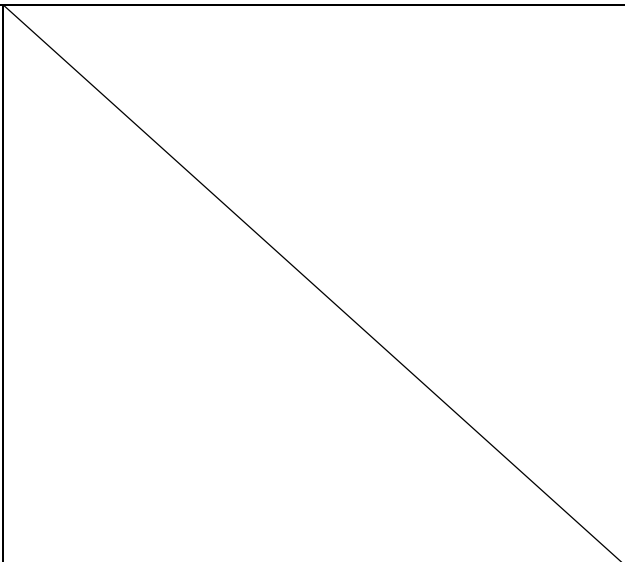
総務学事課から説明後、質疑応答

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
それでは総務学事課からご説明いただきました第4期中期目標について、ご意見、ご質問をいただきたいと思います。総務学事課の皆さんも多分3年前後で異動になる中で、今この第3期から第4期の目標作りに入っているわけですが、第3期中期目標は、前任の方々がお作りになっていて、今、総務学事課職員からご説明いただきましたが、A3横の資料2の整理ですね、私としたら大変分かりやすく、よくまとめられたなど、無駄なところが整理統合されて、よく頑張られたなど評価したいと思います。それを資料3で、何ページにわたるのでしょうか、説明をいただきましたけれども、多分大学側もこれから計画作りに入るのに県から提示された目標素案としたら検討しやすいものになっているのではないかと思います。前もってネットで資料が配信されたので拝見しましたが、どうしても詳細に読めませんので、紙ベースで今またご説明いただき、さらに理解が深まったところです。委員、何かご意見等いかがでしょうか。	
はい、私も非常に簡素化したといいますか、見やすくなったと思います。逆に具体性に欠けるのですが、それはこれから大学にお任せするという意図があるのだと思います。むしろ大学の自由な判断が期待できるということにかえって良かったのではないかと思います。	
ChatGPTやAIを総称してデジタル化への対応とありますけれども、AIや	

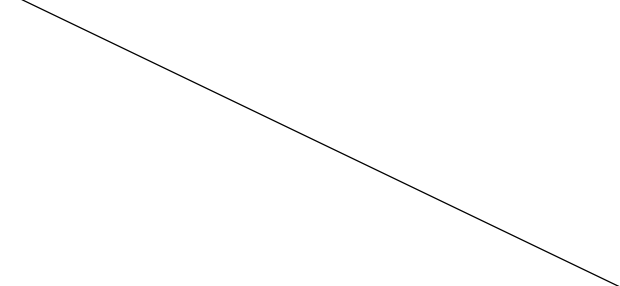
デジタル化への対応などそういう言葉をもし大学が計画の中で使いたいなら、上手くやればいいんじゃないかなと思いますね。委員いかがでしょうか。

今日は大きな目標の設定なので、コメントするほどでもないというか、特に問題になるところはないかと思ひますし、第3期で課題に上げていらっしやいました地元定着であるとか、リカレント教育について重きを置いた表記になっていると思ひます。特におっしゃられた通り体系図における項目というのは非常にすっきり、分かりやすくなっていると思ひます。なかなか苦労されているというか、自己点検・評価と広報活動をまとめているところなど少し苦しいかなと思ったりもしますが、あえてコメントすると、自己点検・評価という言葉を使い続けるのか、先般受検された機関別評価のように内部質保証という言葉を外に出していくのがいいのかというところは少し考えていただけるといいかなと思ひています。

大学に対するとおひますか、これは総務学事課に対する第4期中期目標というよりは今後の長期的な岡山県における高等教育のあり方も当然視野に入っているかと思ひのですが、昨今、私立大学の経営が厳しい中で、文部科学省としては撤退するところを手厚くするということをおひられています。県立大学も決して経営が楽なわけではないですし、比較的規模の小さい岡山県立大学の場合は、県立大学ですから、将来、第4期よりさらに先を見据えたときに、課題であげていただいているような18歳人口の減少や東京一極集中などが、これから先、改善するかどうかは全く見込めないところですが、その中で岡山県立大学の果たす役割はますます高くなっているということ。岡山県立大学だけが高くなっているのか、それとも高等教育に対する期待が高まっているのか。この10年間大学が何とか生き延びてきたのは18歳人口がどんどん減ってきていても、大学進学率が上がっているからという感じ。今後、大学進学率が頭打ちになってくると、当然、大学入学者数は減ってくる。みんな大学に行くのが当たり前になってきた時代に大学の役割とは何だろうか。岡山県として高等教育、さらに大学院教育なのかもしれないが、どういう役割が必要なのかという

ことを考える方向に進んでいくのか。もしくは、地元に残る、地元の産業の振興というのが大学の目的の一つでありますから、そこに向けたところにフォーカスをずっと置いていくのか。それによって目標の立て方、あるいは目標に沿った計画の立て方が出てくると思うのですが、短期的にといいますか中期的なのか、この第4期における目標、それから秋冬に作られる中期計画は、地に足をつけてしっかりとした答えが出てくると思うのですが、その先はどうしましょうか。これはこの目標に対する意見というよりは、県の方向性などを少し伺っておくと、教育に携わる者として参考になるかなと思いました。	
目標だけでするので、第3期を整理されてもう少し分かりやすい形にされたということなので、目標自体が大きく変わったというよりは、位置付けを移動したり、簡略化したり、統合したりという形だと思うので、それについて何か申し上げることは無いと思っています。目標は県、計画は大学でしょうか。私学ですとどちらも私達がやるんですが、役割が分かれているということですか。	ありがとうございます。おっしゃる通りでございます。前回もお話したように県で課題を整理させていただきまして、第3期中期計画では概ね目標を達成しているけれども、まだ課題としてこのようなことがあります、ということで7つ挙げさせていただいております。第4期中期目標（案）の中に7つの課題をそれぞれ落とし込んでおります。この中で一番重要な、忘れてはならない目標として重点目標を決めさせていただきまして、県が設置している大学であるが故に大学に来られる方が県内に定着し、県内の企業等に就職等していただきまして、県の活性化や産業の振興に繋げていく。その手段として、吉備の杜創造戦略プロジェクトの取組等を踏まえまして地域連携教育やリカレント教育などの充実も図りながら、地域に貢献していく大学であり続けたいという大きい目標は変わることなく進めたい。
私の理解では8月下旬から9月下旬にかけて、岡山県の補助も頂きながら運営している県立大学ですから、パブリック・コメントをいただくわけです。その間も、多分同時並行してコミュニケーションしながら、目標と計画は進めて行かれるんだろう。パブリック・コメントの前後からより一層連携されるんじゃないかなと理解しています。	このことは、知事にも説明いたしまして継続してその方向でやっていただきたいというお話をいただいております。第3期の課題整理がありまして、それに対して第4期の目標設定という流れになっておりまして、先ほど言われました中期目標期間の途中で新たに課題が出てきたときには、議会や評価委員会にお諮りして目標の修正等もあり得ると思っております。
先に目標が決まるということは、例えば計画の中で新たに課題が出てきた場合はどうするのか。 割り切った言い方すると、県からの提示は暫定的なものとして県大では年末に向かって計画作成を進めていくことが大事だろう。県議会で議決を頂き、年内には正式に目標が決まってきますから年明けからさらに進めていくという理解をしているんですけれども、いかがですか。	とりあえず中期目標でございますので、この6年間、先ほど委員の方からお話がござ

	いましたけれども、大学進学率が高くなっていったので大学入学者数は減っていなかったが、これからは大学入学者数が減る時代になってくる。それを踏まえてどう考えていくのかということが令和8年度ぐらいから出てくるのではないかと。先日、新聞に出ておりましたけれども、2040年ぐらいには年間何万人も生徒が減っていく学校として経営的な問題も非常に大きくなっていくという記事もございました。たちまち、この6年間を考えていくときに、令和8年から生徒が激減していくという訳でもないと考えています。今、入試の倍率が1.0倍を切っている訳ではございませんので、すぐに生徒が減るとは考えていませんが、今までもそうでありましたけれども、今の高校生により魅力ある学校となるよう、これからも努力していきたい。それから地域貢献ということで地元からより多く通っていただける学校にしていけたらなと思っているところであります。
この中期目標を立てるときに、大学側とのやり取りは既にあったのか。つまり大学は課題を出されるだけなのか、それともこの目標を作るためにもう既にお話し合いがされているのか。	事務レベルで話をさせていただいております。
第3期ではグローバル化に関する目標が中項目で出されていたが、地域貢献・国際交流と一体になったことで何か議論はなかったのか。元々は違うものだと思うんですけども、例えば、グローバル化に関する目標だけを項目として立てるのは少し難しいということだったのか、そのあたりはどうでしょうか。グローバル化というのは大切だと思っている。	これにつきましては、県立大学の学部の関係から、なかなかストレートにグローバルを受け止められない面もあり、今実際やっていることは国際交流が主になっていると思いますので、県立大学として取り組んでいる中での若干の課題を県に申し上げ、それを踏まえて今回修正させていただいていると思っております。そういう中で、国際交流と名前を変えて打つ部分と、英語教育については教育のところで、というお話がありましたので県立大学としてはそう受けとめさせていただけたらいいのかなと思っています。そうすると目標では教育に出てきていないところがある、という疑念はありますが、そのようなところを県で確認いただきながら、中期計画を作る段階では、英語教育は教育のところで書いて、交流については国際交流のところで書いてということイメージしているところです。

ありがとうございます。これまで力を入れてきた英語教育が埋もれてしまうのはどうかなと思いました。それから、教職員の確保・育成だけが新規で設定されている。他のところは移動したり、統合したりという形ですけれども、教職員となっていますが、これは教員のことでしょうか、それとも事務職員のことでしょうか。高度な専門性や優れた事務処理能力というのは、教員の採用ですと専門性ですけれども、ここに書かれている育成はいいのですが、確保というところは、どう解釈すればいいでしょうか。	県立大学の状況を申し上げますと、法人化したときには全ての事務職員が県からの出向だったのですが、法人化してプロパー職員の採用を進めてまいりまして、プロパー職員の比率が高くなってまいりました。そろそろ管理職という段階になってまいりましたので、プロパー職員が大学運営に携わっていくことになっていきますので、そういった意味での育成が必要と考えています。教員につきましても、確保というのは、時代の流れの中でやっていかないといけないので、こうした状況を県にお伝えしたところこういう形での目標が示されたという認識です。
この書き方だと、どちらなのかなと思いますし、教員に優れた事務処理能力を求められてもと思いました。でも、教職員となっていますし、「持続的に教育研究活動等」が入っているので推進するなら教員なのかなと思い、意図がよくわからなかったので質問させていただきました。	
今、委員がおっしゃられたように、グローバル化は重要な事だと思います。グローバル化を国際交流に置き換えるのは、何か夢がないような感じがします。その他は、分かり易く示された内容の第4期中期目標になっていると思います。その中で、質問ですが、大学院志願者の増加を目標とされていますが、現在の状況は内部進学者と外部進学者どちらが多いのでしょうか。	大学院生ですが、学部によって多少比違いますが、概ね内部進学が多いです。外部から来られる方もいらっしゃいますが、それも学部や学科によって少し差があります。全体で見ますと、内部進学が多いです。
これからの時代を考えますと、社会人が大学院に入って、もう一度勉強しようという方も増えると思います。志願者を増やすには、社会人の方も対象に加えるということも考えていかないといけないかなと思います。今後、大学院は、どのような特徴があってどのような研究をしていくか、如何に魅力をアピールしていくかということが重要になってくるとと思いますが、どのような方向性をお考えですか。	ご指摘ありがとうございます。私個人的には、社会人が大学あるいは大学院で再び学んでいただくことは非常に重要だと思っております。県内の産業を高めるには、そういう形で自分の目の前の仕事だけではなくて、もう少し広い視野を持った方々が増えていくのが非常に大事だなと思っています。具体的にどうするかに関してはあまり検討できていないんですけれども、実は私20年近く前、岡山大学のときに県立大学で大学院の1科目だけ非常勤で来させていただいた経験があります。その時には、社会人の方が数名、私の講義を数年間取っておられたんですが、いつの間にか

	来られなくなりました。県立大学へ昨年来たときにお聞きしても、今、社会人の大学院生はほとんどいないとお聞きしています。 岡山大学のような国立大学はどちらかというと博士課程の社会人教育がかなり重要視されるのですが、県立大学の場合、あるいは公立大学法人の場合は修士課程の大学院生も育てるような、先ほど目標のところで多様な教育機会の提供というのがありましたけれども、そういう形で考えていけばいいなとは思っているのですが、多分大学関係の方はよくご存知ですが、修士課程の場合は授業科目を大体2年間で10科目ぐらい取らないといけなくて、研究はそれぞれの会社あるいは社会人としての研究の動機とかでテーマ設定ができると思いますし、時間的にもある程度フレキシブルに進めることができるんですが、授業科目だけは大学に来ていただかないと駄目ですので、文科省さんがオンラインをうまく使った形での講義をもう少し認めていただければいいなとは思っているところです。そうしたことについては今後検討していきたいと思っています。
10科目ですか。	おおむね10科目、20単位ぐらい取られているみたいです。ですから、夕方開講とかオンラインをうまく活用するとか、そういう形がもっとやりやすくなればいいなとは思っています。 それから、県大の方々はそうやって大学院、それから岡山大学の場合は、博士課程もですが、長期履修制度があるので、履修年限を2年ではなくて修士課程の場合でしたので、3年、4年とか学生さんの状況に応じて設定は可能なので、そういう形もできればいいなと思っています。ただ、そうしたときに、県内の企業の方々に来ていただけるかどうか分からないので、その辺りの感触はどうでしょうか、というのを逆にお伺いしたいところです。
ありがとうございます。内容がわからなければ進学もできないので、内容がわかれば、進学される方もあるかと思います。	

1年で10科目、今とりあえず2年間。	授業科目は20科目。それ以外に修士研究がありますので。
一般的に学生さんは1年間、大学へどのように出向くようになりますか。	進学してきた学生さんの場合、修士1年生の前期、春から夏の学期で、ほとんど8科目ぐらい取って、後期にあと2、3科目取るというパターンが多いです。大体、修士1年の間に授業科目は全て揃って、あとは研究だけという形で進めるケースが私が所属していたところでは多いです。そういう形でいくと半年、3か月ぐらいです。その間結構、授業に出ないといけなことが多くなる状況で、会社の方々にはやりにくいところかもしれない。
県立大学として、地域の企業との連携をもちろんやっていかないとはいけませんけれども、リカレント教育から言うと、今、65歳の定年が当たり前になってきて、多分4、5年のうちに70歳になると思います。ただし、62、63歳とか非常に柔軟な勤務体系になってきて給料は下がるけれども週4日勤務でいいですなど。企業の目標のために勉強することから、自分の人生の自己実現のために勉強するという勉強の目標が変わってくる可能性もあるので、そうなったら今たちまち自分の会社がこれまでこういうことはマーケティングをやってきたけれども、65歳ぐらい、今人生100歳時代ですから自己実現のために自分のこれまで学ばなかったことを会社とは特に関係ないけれどもやりたい、そういうニーズも出てくるんじゃないかと思います。そういうことを上手に何か商品化してアピールしていけたら、そういう促しにも繋がっていくんじゃないかと思います。	ありがとうございます。その辺りも少し考えたのですが、岡山県立大学の場合は、デザイン学部以外は実務者を育てる学部が多いので、これからは同じ企業で10年ぐらい専門的な能力で活躍しても、時代が変わるとまた別の新たな能力を身につけないといけなくなってくると思いますので、30代から40代ぐらいのところで再度入学していただける方が出るのかなとは思っているところです。 おそらく大学院に入学して、自分の研究力を上げることは、必ずしも入学しなくても共同研究などを実施すれば会社のエンジニアの方も研究力を上げることができると思います。それで大学院に入学すると、修士あるいは博士の学位を取る。その修士や博士という学位を取ったことに関して、どの程度評価されるのか、その企業に入ったときにどう評価されるのか。博士になるとおそらくそれなりに評価は高い。修士ではどうなのかということで全国的に問題になっていて、研究力を上げるだけなら別に入学しなくても共同研究で十分じゃないかということがあって、なかなか社会人の修士課程への入学は鈍化しているということは全体的にはあるようです。その辺りがMBAなどになってくるとまた別の評価をされるのですが、私、情報工学部ですけれども、工学系の修士の学位がどの程度評価されるのかということはありません。

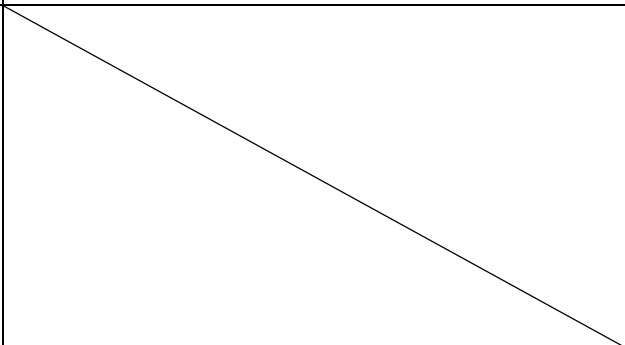
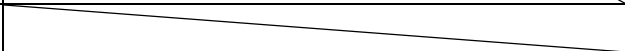
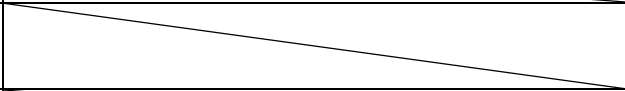
何のために学ぶかですね。単になんか見栄えのために学ぶものではないですもんね。	大学院教育は非常に重要なことで、規模の小さい公立大学がどうするか。しかも、地域貢献というところに焦点をあてた場合にどうすればいいのか、一番難しいところですね。私も機会があれば企業の皆様方とお話をさせていただいて、企業の方がマスターを取った方を希望していращやるか、これからどう一緒に歩んでくださるのか、この辺りをいつも聞いています。大学院を卒業された方が企業に入ってくると、腫れ物に触るような形になっていращやる場所が多いという話を聞きまして、これでは、お互いに上手くいかないのではないかということです。我々の大学の教員もあまり大学院教育を重要視していないというのはおかしいですが、学部までで完結させていくような教育でずっと来ていますので、その上のところがまだ洗練されてない、ということに私気付きまして、ここを何とか打破しないと社会に貢献できる大学院生が輩出できない。今お話しした社会人の方に来ていただくのも大歓迎ですというか、これからはそうでないと学生を確保できない、大学院に入学される方がいращやらなくなると思っていますので、ここを最優先にこれから考えないといけない。先ほど、副学長が申しましたように結局20単位と10単位の研究を合わせて30単位取らないといけないのですが、かなりショートカットして、期間を短くしながら、学び方を考えながら、おそらく社会人の方はのんきにできない、時間的な制約があり、のんきにするとダラダラと何年間も在学される、ということもありますので、これは大学側で考えれば、できることではないかと思うのです。大学院教育がどのようなものかご理解いただけるように、もう少し話し合いが必要ではないか。これが次の第4期の目標・計画に反映されるようにしなければいけないと思います。
資料1の裏に大学進学者数の減少ということが書いてありました。18歳人口のピーク時より18歳人口が半分近く減るにもかかわらず、大学進学者数が増えてい	岡山県の進学率は全国平均程度だと思います。

る。これは本当ですかというか本当なんですよ、2022年の数字ですから。こういう数字を取れるのであれば、全国ではなくて岡山でこういう数字が取れないかと感じているのですけれども、無理なんですかね。全国平均と同じように大学進学率が18歳人口ピーク時には26.3%だったのが、2022年には倍以上になるわけですね。これは事実な訳でして、令和8年にはさらに上がっていく。岡山でも同じ傾向が見られるのでしょうか。岡山県立大学に関係して岡山のこういうデータがあれば見やすい。	
岡山における大学進学者数というのが大体分かりますので、岡山の大学進学率がそれほど低くはないということ、分かりました。ある意味安心しました。	そこから派生するのが、先ほど申し上げられた学校が維持できるのかという問題になります。競争率は概ね2～3倍ありますので、たちまち1倍を切るという話ではないと考えているところです。
将来的には人口自体が減っていくのでどうしようもないことなのでしょうけれども。	
前回、私は突拍子もないことを言いました、課長には苦しい中コメントをいただきましたが、岡山県の公立大学のあるべき姿といいますか、第3期から第4期の目標は基本的に変わらない姿で作っているんだけれども、もっと打って出るべきではないか。先ほどのこじんまりとした大学とおっしゃいましたが、3学部体制からもっとバラエティーに富んだ大学にしていく。自分が言うとおかしいのですが弱小私立を取っていくぐらいのつもりでいくのか。それでは経営的にますます厳しくなっていくのかもしれないけれども、様々な県民の要望に応えるには、そういうこともあるのかなと。そういう長期的に大学をどうしていくのか、怖いことを言うと、もうなくてもいいんじゃないかという議論もあっていいと思います。そういったことを県庁の中、あるいは大学と話をしているかどうかというところが長期目標を立てるときには必要なことだと思います。最終的には今の形で必要でしょうということになると思いますが。私、常々、公的なセクターの	今、先生非常に良いことをおっしゃってくださったと私は思っております。先生がおっしゃってくださったとおり、高等教育の在り方、これから大学はどうなっていくのかということをしつかりと捉えておかないと、おそらく今の第3期の6年間と比べて次の第4期の6年間はスピーディーな感じで社会が変わっていく。そこで大学に入ってきて学生が何を学んだか、あるいは社会の皆さんが恩恵を被ったかどうか。そのところから話合っていないとなかなか難しいと思っております。今おっしゃってくださいましたように、設置団体と我々大学とが十分にディスカッションしながら先の6年間でどうするか。これをやらないといけないということは重々分かっておりまして、ここに来るまでもいろいろとご相談させていただいて、かなり我々のわがままも聞いていただいたと私は思っております。例えば、3ページに「中期目標の教育研究上の基本組織」と書いてあります。ここに、今まではきっちりと学部研究科のユニットを書き上げて来ていま

あり方を考えるのですが、赤字だからやめてしまうという資本主義的な考え方では成り立たない分野があると思います。教育もそう、我々がやっている医療もそうなのですが、不採算な部分、例えば、地場産業のためにこういう人材育成が必要だけれども、みんな育成してくれないじゃないか、だったら県がやるぞ、というのであればこれは非常に存在意義があると思う。ですから、今の話の中で大学院の教育も出ましたが、例えば、企業が大学院で勉強した人じゃないと取らないよ、と言ってきた場合に県立大学がそういう人を育てているから取ってくださいね、ということになると思う。ところが、地場産業の振興と言いながら、言葉が悪いですが、うち中卒でいいですよ、もう現場でたたき上げるから、と言われるのなら地場産業にとって、高校、大学の意義がなくなってしまう。でも実際そうではなくて、きちんと高等教育を受けて知識と技術を身につけた人が地域の企業にも必要だ。先ほどグローバルな話が出ましたが、例えて申し訳ありませんが、海外に展開する地場の企業がたくさんありますよね。そういう人を育てるためには、やはりグローバルな視点を持って、岡山県の企業に勤めたいという人を育てるのはまさに県立大学の役割じゃないかということ为先ほど学長がおっしゃった通り、企業、産業界とも相談しながらやっていく。そのようなことを中期目標といいますか長期の展開として頭に置いておくと、どういう学部構成でどういう大学院教育をして、どう教職員の質を上げていくのか。先ほど委員からもありましたけれども、教職員においてもこういう人が欲しいんだとか。全く触れられていませんけれども、18歳の日本人が減っていくんだったら、今、国公立大学の大学院というのは留学生がかなりの割合を占めていますが、そこをどうしていくかといったことも含めて考えていくのが、これからの仕事なのかなと思います。大変だなとは思いますが、他人事だからこれだけ勝手なこと言って

す。ところが、この第4期には、我々の3学部が横に組織を融合させながらの一つのあり方を示さないと、これから発展しませんよ、ということを役員会はじめ学外の皆様が何度もおっしゃってくださいています。今後考えないといけないと私自身思っておりまして、それをお話させていただきましたら、今回の中期目標のところで、第4期には組織・ユニットを示さない、という判断をしてくださいました。これは非常に大きなことではないか、ここにある程度の自由を持たせていただいたと感謝をしております。ただ、この先どうするかというのが大変でして、ここは十分話し合いをさせていただきながら、とにかく特色ある岡山県立大学、これを前に出すにはやはり核になる必要があります。しかもそこに具体的な政策が入らないと説得力がない。ここまでは何とか見える形にして次に進んでいただきたいなと感じているところでございますので、秋山委員さんのおっしゃってくださいったことを、もう一度我々のところで考えさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

あえて県からどうという話ではなく、この前もお話がありましたけれども、そういう地元の企業さんのニーズを大学と商工会議所などが直接お話されて、どんなニーズがあるのか、中小企業さんがどんな人材を求めているのかということのを個々に把握して、そこにどういう人間が欲しいのか、人材育成のもとで何が役に立つのかなど、今、学長が言われたように、どんなことが必要なのか我々で話をしながら、委員のご意見を踏まえていけたらなと思います。

いるんですが、そういった視点をまた一緒に意見交換しながら作っていったらいいのかなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。いろいろ思いつくまま喋って恐縮です。	
私が常に言っているんですが、商工会議所だと思うんです。各商工会議所にアピールしていく、マーケティングしていく必要があると思うので、そこに改めてそういう草の根運動をやっていただきたい。まず、どういう開発テーマが、活性化テーマがおありですかとか。岡山に商工会議所は何か所ありますか。	
1 2 か所ですね。	
各市などにある商工会議所を取りまとめるのが、何という名前でしたかね。	
岡山県商工会議所連合会です。	
そういうところにご相談いただきながら、ぜひその辺りのニーズを改めて整理されたいということ。そういう中で、戦略戦術を作ることと、やはり基本は学生ですから岡山で地元で仕事をしたいと地元の愛情、郷土愛みたいなものだったら自分はこういうことが得意だけれど、こういうことは勉強したい、じゃあ県立大学は今こういうカリキュラムでこういう学部、学科で、そうしたらこういうところが自分の行きたいところとマッチングするな、というところまで学生くんを置き去りにせずにぜひ考えていただきたいと思います。 それから、人口が減りますから規模じゃなくて質です、絶対。ボリュームじゃなくてクオリティです。いかに特徴あるクオリティを作っていくか。それが強みという言葉で出てきたと思うのですが、規模じゃなくて質。スマートでコンパクトも一つ	コロナ前までは、年に2人ぐらいタイだったと思いますが、現地法人へお邪魔して現地のエンジニアのグローバル化といいますか、そういうことを体験するというところを実施しておりました。コロナが落ち着いてきましたので、また再開しようかと思っています。

のキーワードになろうかと思います。それから前から言っていますけれども、差ではなく違い。ディファレンスをどう作っていくか。だから、3学部で小ぶりだということが逆にラッキーだと思うんですよ。一方で委員が言われた、攻めていくというアグレッシブな気持ちも持たないといけないので、例えば3学部の中で情報化社会の中で情報工学部もすごく大事ですし、それからデザインも建築が入って少し広がりましたし、その中で新たな学科を設けて、よりアピールするなら4学部目を作るのではなくて、今の3学部の中でカリキュラムを増やして高校生たちにこの分野を勉強したいな、だったらこの学部かという研究もぜひ大学側の方でしていただけたらどうか。20～30年前から総合政策学部が各大学で設置され、要は、経営でも経済でも何でもということであったかと思うんですけれども、今、いろいろな大学でございますけれども、特に私立大学では。何かそのあたり工夫をされることがあれば、3学部の中で広げていくということ。そこにはいたずらに量の拡大じゃなくて、やはり質を求めるためにそういうことをしていくんだ、ということを忘れずにやっていただきたい。

とにかく特徴あることやっていかないと、この人口減少の中では。いつか人口が8000万人になるとなったら絶対、質だ。それから国際化ですね。卑近な例で恐縮ですけど、例えば、高専さんは毎年夏休みを使って、うちの会社でも受け入れているんですけれども、上海の子会社をご訪問いただいたり、インドネシアの子会社をご訪問いただいたり、そういう実例を見せることがすごく大事だと思います。どんな説得よりも、外を見せれば、たったパスポートの一つでも取って出ていくことによって、イミグレーションで苦勞したりとか、現地のインドネシア人に一生懸命日本語を勉強する子がいるのでそういう子たちに触発されたりしますので、そういう機会を与えるということがすごく大事だと思います。

限られた予算であるでしょうけれども、ぜひ海外留学もそうなんですけれども、地元企業の中で海外進出されている企業も相当数ありますから。うちなんかパラグアイまで会社を作っておりまして、思わぬブルーオーシャンで良かったなと思っていますんですけれど。ぜひそういう地元企業のニーズに密着した地元教育を。トータルでとにかくユニークだと。 それから企業でいうとロイヤルカスタマーです。ロイヤルカスタマーになるとお客様が宣伝してくださる。そういうロイヤルカスタマーを作っていく。高校生が入学したら後輩に、実学が学べるからおいでよ、という質をぜひぜひいろいろと作っていったらいいんじゃないかなと思ったりします。 今回、県が作られた目標ですけれども、ここからより多弁になるんじゃないくて、文章が長くなるんじゃないくて、より概念化されて、キーワードで何か訴えるような、キャッチフレーズみたいにそれぞれ項目を落とし込まれていったらいいんじゃないかなと思ったりします。	
ぜひインドネシアへどうぞ。うちの会社はいくらでもお受けします。	最近、俄然、デザイン学部が元気になって、社会から県大はデザイン学部があるから得しているんだと言われ、頑張らないといけないって皆さんが思い始めています。若い先生方が結構いらっしゃって、海外にどんどん学生を連れて行ってくれていますし、協定校からもたくさんの学生が来てくれて、すごく弾みがついたようです。さらに、建築学科の教授が日本建築学会賞を受賞しまして、これは快挙でございまして、おそらく建築学科に来てくれる学生さんも増えてくるのではないかな。ちょっとしたきっかけですが、先生と学生さんが一緒になって動かれたらすぐに良い循環が見えるんですね。だから、こういうことに投資できるようにさせていただきたいなと思います。
やはり、山陽新聞です。親御さんが見ますから。子供たちも時々山陽新聞を見ますから。お金がかかりますが、上手に使ったら	山陽新聞の社長様は本学の役員でございます。

いいんじゃないかと思います。	
少し気になっていたのは、第3期であった第1の中項目を廃止したのは、単純に機械的にここは不要だからと最初説明を聞いて思ったのですが、逆に記載しないことによって自由度を増すという意図があったのかどうか。というのは、第1 1 (1)教育のところに、第3期で入っていたカリキュラム等の充実については残っているのですが、組織の見直しが消えており、これはどこに入っていくのか。つまり、組織はもうこの第4期では見直さない、一応安定したこの形の中で行うのかなと思ったのですが、この時期に組織の見直しを常に考えていくのは、これから大学にとっては必要だと思っているので、そのあたりはイメージして常に検討するという形を残しておかないといけないのではないかと思います。 それから、先ほどから出ている国際化について、学生の国際交流だけではないと思います。英語教育を中期目標に記述するなどして中期計画の中にきちんと記述できるようにしておくのがいいかなと思います。 一見、整理してすっきりとした形ですが、言葉できちんと残しておかないとそこにか何かいろいろ勘ぐってしまうので、きちんと残すべき言葉はどこかに記載しておくことがこの目標では大事かなと思います。 先ほどありましたように、公立大学もとても増えており、これからも増えると思う。公立大学の中での競争もすごく激化する、していると思う。しかも、公立大学の学生は必ずしも県内の学生だけではないし、県内に定着するわけでもない。そういうことを考えると公立といいながら、結局全部地域の中で、いろいろな所に移動しているということを考えると、県の内部でもう少し広いニーズも考えないと、これから8掛け7掛けの生徒数となっていく中で、公立といえどもなかなか定員の確保は難しくなるのかなと思います。	
委員はグローバル化という言葉が欲しいなとおっしゃられたんですね。	

はい、そうです。国際交流では小さくまとまってしまっている感じがします。	
学長がおっしゃられましたけれど、今後、デザインという言葉がウェルビーイングじゃないですけど、アートという意味でどちらを広義にとったらいいいのか分からないけれども、デザインなのかアートなのか。アートということが、いろいろなところに、人生のアートだとか、単に絵画というのではなくて。デザイン学部がすごい機能を持っているんじゃないかと思うんですね。広げようと思えばいくらでも広げられるし、また、その中で絞り込もうと思ったら絞り込めるし、足そうと思えば足せるし。次の第4期は県立大学としてもすごく大事になりますね。また、この6年間はA I じゃないですけど変化が激しいでしょうね。 そろそろ予定の時間を過ぎているんですけども、今日は誠に忌憚のないご意見が出てきました。7月22日の第2回目を受けて8月8日にこう整理いたしましたということをした方がいいんじゃないかと委員長としては思いますが、いかがでしょうか。結構多岐にわたって忌憚のないご意見が出ていますので。	ご意見を頂いたことでと思いますが、具体的な単語を入れていくのがいいのかもしれませんが、とりあえず目標なので概括的な言い方をさせていただいています。先ほどお話がありましたように目標に組織を明記しない。組織は目標にはなりえない、手段だと思うんです。 それを落とすというのは今回目新しいことではあります。教職員云々という部分も新たに入れさせていただいたのは、課題としてあってそれは書かせていただくという形できちんと整理をさせていただいた上で、やらせていただきたいと思っています。今日頂いた意見については、検討させていただいて、それが反映されるかどうか分かりませんが、より良くなる部分については目標に反映させていきたいと思っています。
委員どうでしょうか。8月8日にもう一度集まる必要がありますか。	
言われるように、具体的なことについては今後に回すということで私はいいと思います。	
あくまで目標ですから、ここから作業を総務学事課と県立大学にまずはお任せして、それを私が変更事項を確認するというところで、それを配信していただきましょうかね。	はい。ご足労いただくような内容にはなり得ないかもしれませんが。皆さんお忙しいところお集まりいただくのは大変なので。
それでは、私の方でチェックいたします。忌憚なくやりますので、それでネットで配信していただいて確認するということがよろしいでしょうか。それでは8月8日はなしということで、今日は忌憚のない3者の意見交換ができたと思います。どうぞパブリック・コメントに向かって、より素晴らしい整理された目標になりますように	

委員長としても総務学事課や県大のご意見も聞きながら、進めていきたいと思えます。あとは私の方にご一任いただくということでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

